

薬効・薬価リスト令和4年版 追補
(令和4年6月7日告示・8日適用)

内 用 薬

先	ボカブリア錠 30mg	30mg1錠	3,541.60
	(ヴィーブヘルスケア=GSK)	6250050F1024/622909701	

6250i HIV インテグラーゼ阻害剤 カボテグラビルナトリウム

適応 HIV-1 感染症。

注) ①ウイルス学的失敗の経験がなく、切り替え前6ヶ月間以上においてウイルス学的抑制 (HIV-1 RNA 量 50copies/mL 未満) が得られており、カボテグラビル及びリルビピリンに対する耐性関連変異を持たず、本剤への切り替えが適切であると判断される抗 HIV 薬既治療患者に使用。②本剤は次の場合に限り使用/長時間作用型の薬剤であるカボテグラビル注射剤の投与に先立ち経口導入として忍容性を確認する、カボテグラビル注射剤を予定するスケジュール通りに投与できない場合の代替薬として使用する。

用法 リルビピリン塩酸塩と併用で1日1回30mg、経口投与。

注) ①カボテグラビル注射剤及びリルビピリン注射剤の併用療法の経口導入として用いる場合、本剤をリルビピリン経口剤との併用により1ヶ月間(少なくとも28日間)を目安に経口投与し、忍容性を確認。②カボテグラビル注射剤を投与予定日の7日後までに投与できない場合、本剤による代替投与が可能であるが、代替投与可能な期間は2ヶ月間までであることに留意する。

保険性 診療報酬明細書等の取扱いにおいては、当該患者の秘密の保護に十分配慮する(令4.6.7保医発0607第1号)。

禁忌 ①本剤(成分)に過敏症の既往歴②リファンピシン、フェニトイン、ホスフェニトイン、フェノバルビタール、カルバマゼピンを投与中 **併禁** ①リファンピシン(リファジン) ②カルバマゼピン(テグレートール) ③フェニトイン(アレビアチン) ④ホスフェニトイン(ホストイン) ⑤フェノバルビタール(フェノバル)

(薬価基準収載日: 令4.6.8)

※(揭示事項等告示) 当品目は新医薬品の処方日数制限対象外。

注 射 薬

先	ボカブリア水懸筋注 400mg	400mg2mL1瓶	176,458
	(ヴィーブヘルスケア=GSK)	6250408A1028/622909801	

先	水懸筋注 600mg	600mg3mL1瓶	253,850
		6250408A2024/622909901	

6250i 持効性 HIV インテグラーゼ阻害剤 カボテグラビル

適応 HIV-1 感染症。

注) ①ウイルス学的失敗の経験がなく、切り替え前6ヶ月間以上においてウイルス学的抑制 (HIV-1 RNA 量 50copies/mL 未満) が得られており、カボテグラビル及びリルビピリンに対する耐性関連変異を持たず、本剤への切り替えが適切であると判断される抗 HIV 薬既治療患者に使用。②投与前にカボテグラビル経口剤をリルビピリン経口剤との併用により1ヶ月間(少なくとも28日間)を目安に経口投与し、忍容性が確認された患者を対象とする。

用法 1ヶ月間隔投与 リルビピリンと併用で600mgを臀部筋注。以降は400mgを1ヶ月に1回、臀部筋注。2ヶ月間隔投与 リルビピリンと併用で600mgを臀部筋注。初回投与1ヶ月後に600mgを臀部筋注し、以降は600mgを2ヶ月に1回、臀部筋注。

注) ①初回投与はカボテグラビル経口剤及びリルビピリン経口剤の投与最終日と同日に行う。②2回目以降は投与予定日の前後7日以内に投与。投与予定日の7日後までに投与できない場合、代替としてカボテグラビル経口剤とリルビピリン経口剤を1日1回併用経口投与。③1ヶ月間隔投与から2ヶ月間隔投与に切り替える際は、400mgを最終投与した1ヶ月後に600mgを臀部筋注し、以降は600mgを2ヶ月に1回臀部筋注。④2ヶ月間隔投与から1ヶ月間隔投与に切り替える際は、600mgを最終投与した2ヶ月後に400mgを臀部筋注し、以降は400mgを1ヶ月に1回臀部筋注。

保険性 診療報酬明細書等の取扱いにおいては、当該患者の

秘密の保護に十分配慮する(令4.6.7保医発0607第1号)。

禁忌 ①本剤(成分)に過敏症の既往歴②リファンピシン、フェニトイン、ホスフェニトイン、フェノバルビタール、カルバマゼピンを投与中 **併禁** ①リファンピシン(リファジン) ②カルバマゼピン(テグレートール) ③フェニトイン(アレビアチン) ④ホスフェニトイン(ホストイン) ⑤フェノバルビタール(フェノバル)

先	リカムビス水懸筋注 600mg	600mg2mL1瓶	劇 90,582
	(ヤンセン=GSK=ヴィーブヘルスケア)	6250409A1022/622910901	

先	水懸筋注 900mg	900mg3mL1瓶	劇 130,310
		6250409A2029/622911001	

6250i 持効性抗ウイルス化学療法剤 リルビピリン

適応 HIV-1 感染症。

注) ①ウイルス学的失敗の経験がなく、切り替え前6ヶ月間以上においてウイルス学的抑制 (HIV-1 RNA 量 50copies/mL 未満) が得られており、リルビピリン及びカボテグラビルに対する耐性関連変異を持たず、本剤への切り替えが適切であると判断される抗 HIV 薬既治療患者に使用。②投与前にリルビピリン経口剤をカボテグラビル経口剤との併用により1ヶ月間(少なくとも28日間)を目安に経口投与し、忍容性が確認された患者を対象とする。

用法 1ヶ月間隔投与 カボテグラビルと併用で900mgを臀部筋注。以降は600mgを1ヶ月に1回、臀部筋注。2ヶ月間隔投与 カボテグラビルと併用で900mgを臀部筋注。初回投与1ヶ月後に900mgを臀部筋注し、以降は900mgを2ヶ月に1回、臀部筋注。

注) ①初回投与はリルビピリン経口剤及びカボテグラビル経口剤の投与最終日と同日に行う。②2回目以降は投与予定日の前後7日以内に投与。投与予定日の7日後までに投与できない場合、代替としてリルビピリン経口剤とカボテグラビル経口剤を1日1回併用経口投与。③1ヶ月間隔投与から2ヶ月間隔投与に切り替える際は、600mgを最終投与した1ヶ月後に900mgを臀部筋注し、以降は900mgを2ヶ月に1回臀部筋注。④2ヶ月間隔投与から1ヶ月間隔投与に切り替える際は、900mgを最終投与した2ヶ月後に600mgを臀部筋注し、以降は600mgを1ヶ月に1回臀部筋注。

保険性 診療報酬明細書等の取扱いにおいては、当該患者の秘密の保護に十分配慮する(令4.6.7保医発0607第1号)。

禁忌 ①本剤(成分)に過敏症の既往歴②リファンピシン、リファブチン、カルバマゼピン、フェノバルビタール、フェニトイン、ホスフェニトイン、デキサメタゾン(全身投与)(単回投与を除く)、セイヨウオトギリソウ(St.John's Wort,セント・ジョーンズ・ワート)含有食品を投与中 **併禁** ①リファンピシン(リファジン) ②リファブチン(ミコプティン) ③カルバマゼピン(テグレートール)、フェノバルビタール(フェノバル)、フェニトイン(アレビアチン)、ホスフェニトイン(ホストイン) ④デキサメタゾン(全身投与)(単回投与を除く)(デカドロン) ⑤セイヨウオトギリソウ(St.John's Wort,セント・ジョーンズ・ワート)含有食品